

研修会レポート 緩和ケア研修会

地域連携センター 三上貴弘

厚生労働大臣から地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている病院は札幌市内にも当院を含めて8病院あり、国の指針に基づき地域における“がん医療の均てん化”に向けた事業が義務付けられています。その一事業である“がん診療に携わる医師を対象に実施する緩和ケア研修会”について本誌2回目のレポートをお届けします。

チーム医療としての研修内容へ

研修会は国が定める研修会開催指針に準拠して2日間で延べ720分以上にわたり、講義やグループワーキングといったプログラムが組み立てられており、全てのプログラムに参加しないと修了が認められない、非常にタイトな研修です。



研修会では、オピオイド処方の医学的エビデンスに基づく講義の他、患者さん、患者家族とのコミュニケーションスキルを向上させるプログラムが組み立てられており、がん終末期の患者さんへの接し方を改めて考えさせられる内容となっています。

今年2月の当院4回目の開催となった研修会には33名（医師17名、看護師10名、薬剤師1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、医療ソーシャルワーカー2名）が参加し、多職種によるワークショップではコメディカルが自分の職種の立場で発言することで、がんリハビリテーションや在宅医療に向けた退院調整のセッションをするなどチーム医療としての緩和ケアを考える上でより現実的な研修内容となりました。

国のがん対策基本計画（平成24～28年度）の素案では、医師以外の医療従事者も研修対象とすべく研修体制の見直しも示唆されており、コメディカルにも理解しやすいプログラムが検討されていくものと思われます。



研修会に是非ご参加を

平成24年の診療報酬改定でも、緩和ケア研修会修了者に対するインセンティブが高まっていますので、がん医療に携わる先生方には是非、受講していただきたいと思います。

各がん診療連携拠点病院等で開催する緩和ケア研修会の開催日程については北海道のホームページ（http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kak/gan_kenshu.htm）へ掲載されますので、ご確認の上お問い合わせください。

当院の第5回目となる研修会は平成25年1月を予定しています。詳細が決まり次第、連携医療機関の皆様にご案内させていただきますので、ご都合がございましたら参加していただけると幸いです。

私は開催事務局として第1回目からこの研修会に携わっていますが、第1回目の研修会で、看取りの映像資料を見て涙する年配の先生がいらした事を今でも鮮明に覚えており、緩和ケア医療は経験を重ねた医療者であっても、つらい医療分野であるのだという意識が毎回強まります。